

[実践的研究：査読付]

日本語と中国語のアスペクト形式について
— 「た」「ている」と“了”“着”の対応性を中心に—

黄 春玉^{*,**}

About Japanese and Chinese Aspect Formats

Huang Chun yu^{*,**}

Abstract

This paper focuses on Japanese and Chinese and focuses on aspects of aspect. The perfect result representing the result can be subdivided into state perfect and event perfect. In Japanese and Chinese it corresponds in case of state perfect, but it does not correspond in case of event perfect. The time component can be classified into an operation period component and a simple period component. Through co-occurrence with time component we can see the difference in semantic features between Japanese and Chinese verbs. Although the [\pm telicity] predicate verb of Japanese co-occurs with the operation period component, Chinese co-occur only with the [+telicity] predicate verb. This does not result from merely semantic features of verbs, but also relates to aspect formats. That is, "た (ta)" co-occur with a non-marginal verb, but "了 (le)" does not co-occur with it. "Die" type verb does not cooperate with a simple time component because it does not have persistence, but "Swelling" kind verbs have sustainability and limitation, so they co-occur with a simple period component. "Die" kind of verb does not coincide with simple time component, but "swollen" type verb co-occur with simple period component.

KEY WORDS : Aspect Formats, State perfect, Event perfect

* 上海海洋大学 外国語学院
** 九州共立大学

* Foreign Language College Shanghai Ocean University
** Kyushu Kyoritsu University

1. はじめに

アスペクトは広くはアスペクチュアリティーと言われ、テンスやテキストに関わり、複雑な文法カテゴリーである。特に中国語では明確なアスペクトカテゴリーの有無さえ議論の焦点となり、定かでない問題点が多く残っている(何伟・吕怡2015:10)。その中において“了”“着”は文法化したアスペクト形式であるということは広く認められている(龚千炎1991:189)。

日本語において工藤(1995:23)はアスペクトは出来事内部の時間的姿であるとしている。動作の持続、動作の完了、対象の状態変化、変化した後の結果状態の継続といった概念がアスペクト範疇に含まれる。

- (1) 彼はご飯を食べている。 <動作持続>
- (2) 彼はご飯を食べた。 <動作完了>
- (3) 木が倒れている。 <結果状態>
- (4) 木が倒れた。 <変化>

このようなアスペクト表現において日本語と中国語は大きく異なっている。中国語では文脈によってアスペクト的意味が表されるがゆえに、アスペクトマーカが“了”や“着”のように限られており、その機能もそれほど発達していないと思われる。例えば「木が倒れた/ている」という表現は「変化」と「結果状態」を表し、それぞれ「た」と「ている」でマークされている。これを中国語に訳すといずれも“树倒了”である。これは文脈のサポートがない限り、「完了」としかとらえられず、「結果状態」の意味を表さない表現となる。

本稿では結果状態や時間成分との共起の側面から、アスペクト形式の「た」「ている」と“了”“着”の対応性を中心にして考察し、その非対応の理由を説明することを目的とする。

2. 結果状態

2.1. 日本語の場合

「結果状態」とは動作の完了の後、主体や対象の変化した後の持続状態を表すが、広義的には効力の意味も含まれる。ゆえに結果状態は「狭義の結果状態」と「広義の結果状態」の二つに下位区分することができる。前者は参照時(出来事時点の後の時点)の状態持続を重点として表し、「状態パーフェクト」であり、後者は先行変化によって生じた参照時への効力を重点として表すとされている(劉綺紋2004:102)。このことは次のようにまとめることができる。

結果状態 { 狭義の結果状態 <状態持続> ---- 状態パーフェクト
 広義の結果状態 <効力> ----- 効力パーフェクト

次の例(5)は参照時における「字」の状態持続を表し、狭義の結果状態である。例(6)は参照時への効力を示し、広義の結果状態である。

- (5) 字が書いてある。 <状態持続>
- (6) 彼はアメリカに行っている。 <効力>

結果状態は一つのアスペクト的カテゴリーとして常に時間性を問題にする概念である。次の例(7)(8)のように属性を表すものは時間性を問題としないので、結果状態とはいえ、通常は単純状態と言われる(寺村1984:138, 工藤1995:39)。

- (7) 日本は海に囲まれている。
- (8) あの人はずぐれている。

また、結果状態は「静的場面」を表すものであり、「動的場面」を表すものは結果状態から排除される。

- (9) 計器盤が蛍火のように緑色に輝いている。『シナリオ・日本沈没』
- (10) 山頂が、まっしろに、光りかがやいていた。『富嶽百景』《仁田2002:71》

例(9)(10)の表す「緑色に輝いている」「まっしろに、光り輝いていた」という状態は動詞「輝く」「光りかがやく」の表す動きと同時に生起し、その動きの完了に伴い、消滅する。つまり、この二例は動的場面を表すものであり、結果状態とは見なさず、動きの状態で見なされる(仁田2002:71)。

2.2. 中国語の場合

中国語の結果状態は通常狭義の結果状態を指すが、「効力」を表す広義の結果状態は含まれていない。中国語の結果状態は一般的に“着”で表される(杨凯荣2001:66, 王学群2002:98)。また、“墙上挂了一张画”のような存現文に“了”が使われることもある(杨凯荣2001:72)。存現文では“了”と“着”のいずれを使っても結果状態の意味を表すが、この場合の“了”と“着”は中和されるのだと指摘した先行研究もある(刘宁生1985)。これに対して、杨凯荣(2001)は副詞“还”及び動作主との共起の立場から存現文の“了”と“着”は意味が異なるものだとして指摘した(p.73)。また、戴耀晶(1997)は“了”は事態を外部からひとまとまりの事象としてとらえ、“着”は事態の内部に立ち入って観察し、静態を表すと両者の違いを指摘した。本稿も杨凯荣(2001)と戴耀晶(1997)の立

場を取る。“了”と“着”は存現文において結果状態の意味を表すが、やはり「完了」か「持続」かで両者の焦点が異なる。

2.3. 日本語と中国語の違い

中国語では日本語のように結果状態を二分類することはできない。例(5)(6)を中国語に訳すと次のようになる。

(5) 写着字。

(6) 他去美国了。

訳文から分かるように(5)のような結果状態を表す場合は中国語の“着”というアスペクトマーカが使われるが、(6)のような効力を表す場合は中国語では“了”が用いられる。この場合の“了”は通常「完了」の意味としてとらえ、効力を表すものではない。例(7)(8)を中国語に訳すと次のようになる。

(7) 日本四面环海。

(8) 他很优秀。

この訳文を見て分かるように、中国語ではいずれもアスペクトマーカは使われていない。つまり、このような単純状態を表す表現はアスペクト助詞は使われない。

次の例では参照時“昨天”[昨日]“夜阑人散时”[夜遅く人が去ったとき]“那年”[その年]はそれぞれ“饿死了”[餓死した]“累倒了”[疲れて倒れた]“打伤了”[負傷した]という変化発生時と同じ時点であるので、変化が生じることを表す表現であり、結果状態の表現ではないと言えることができる。

(11) 昨天我的妻子饿死了。 《猫城记》

[昨日私の妻は餓死した]

(12) 夜阑人散时，自己就累倒了。 《冰心作品集・1949年》

[夜遅く人が去ったとき、自分は疲れて倒れた]

(13) 那年暴动，他跟着县里的保卫团追剿农民，打伤了一只眼。

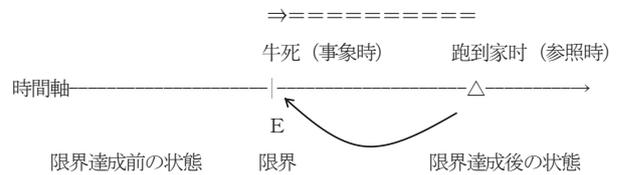
[その年、暴動が起こり、彼は県の保安団について農民を討伐に出かけ、片目を負傷した] 《风云初记》

このような結果状態ではなく、変化の発生を表す表現では中国語の“了”は日本語の「た」と対応すると考えられる。

これに対し、次の結果状態の例(14)～(17)では参照時“跑到家时”[家に駆けつけたとき]は事象時“牛死”[牛が死ぬ]の後に位置しており、この文

はパーフェクトの意味が表されている。

(14) 跑到家时，牛已经死两个小时了。 <結果状態>
 [家に駆けつけたとき、牛は二時間前にすでに死んでいた]



【図1】結果状態の時間軸

この場合、“了”は参照時においてすでに二時間に至ったという意味を表し、文のパーフェクトの意味は“了”によって表すものではなく、文中の時間成分から読み取れるのである。しかし、日本語ではそのパーフェクトの意味は「ていた」で表さなければならない。もう少し例を見てみよう。

(15) 在我到了悬人头之处以前，已经挤死了三位老人两个女子。

[私が人間の首が掛けてあるところに到着する前に、三人の老人と二人の女性が雑踏にもまれて押し死していた]

(16) 一进家门，见家里院里，乱七八糟，花瓶，自鸣钟，玻璃窗子都打碎了，红油箱柜大开，盖子扔在一旁，油坛子酱罐子也搬倒了，红的黑的流下一地。《吕梁英雄传》

[家の玄関に入ってみると、部屋と庭の中はごたごたしていて、花瓶や時計やガラス窓はたたき壊され、赤いペンキの箱は開いていて、蓋は傍らに捨てられ、油壺や味噌壺も倒されていて、赤いものや黒いものが地面いっぱい流れていた]

例(15)(16)から分かるようにこのようなパーフェクトの表現では中国語は“了”で表し、日本語はいずれも「ている」が用いられる。

以上の考察から分かるように、狭義の結果状態<状態持続>を表す場合、「ている」は中国語の“着”と対応する。広義の結果状態<効力>を表す場合、「ている」に対応する中国語のアスペクトマーカはないと考えられる。中国語の効力パーフェクトは副詞や時間成分や文脈などから読みとれるしかない。このことは中国語の一般的特徴を裏付けている。つまり、中国語のアスペクト成分はそれぞれ柔軟に使用され、更に構文に現れず、潜在的成分となることもある。これは中国語の「構造が独特で、柔軟性に富み、含みが多く、

限がなく、完了を表す。いまして例を見てみよう。

(29) a*我等了他。

b 私は彼を待った。

(30) a*我爱了她。

b 私は彼女を愛した。

“了₁”と「た」の共起する述語の限界性における違いは次の表に示すことができる。

述語	+限界性	-限界性
了 ₁	○	×
た	○	○

【表1】“了₁”と「た」の相違

つまり、例 (29) (30) のような表現では「稼働期間成分+述語」は限界的、完結的な動詞句ではないので、“了₁”と共起しない。一方、日本語の「た」は[-限界性]の動詞句の場合であっても、限界性を付与する機能を持っているということである。

3.4. 単純時間成分との共起

3.4.1. 日本語の場合

日本語では、状態変化動詞「死ぬ」「無くなる」「壊れる」「破れる」「崩れる」は、次の例 (31) のように結果状態の持続を表す時間成分の限定を受けることはできないが、状態変化動詞「腫れる」「しびれる」「ぼんやりする」は、次の例 (32) のように、その限定を受けることができる。

(31) 3時間 {*死んだ/*無くなった/*壊れた/*破れた/*崩れた}

(32) 3時間 {腫れた/しびれた/ぼんやりした}

その理由は「死ぬ」「無くなる」「壊れる」「破れる」「崩れる」の表す状態は非持続的であるので、例 (31) は成立しないが、「腫れる」「しびれる」「ぼんやりする」の表す状態は持続性があるので、例 (32) は成立するということである。

3.4.2. 中国語の場合

次の例を見てみよう。

(33) (这本书) 看了三天。

(この本は) [三日間読んだ]

(34) (这口井) 挖了三天。

(この井戸は) [三日間掘った]

(35) *他死了三天。

(36) *钢笔丢了三天。

(33) (34) は単純時間成分と共起するが、(35) (36) はそれと共起しない。この差異が生じる理由は動詞の事態タイプと“了₁”の機能にあると思われる。“了₁”

は限界性もしくは変化性を備えた動作・作用を表す述語形式に後置して完了を表す(木村1997)。例(33) (34) の“看”[読む]“挖”[掘る]は動作過程を有する動的事態タイプであり、その動作は三日間持続したあと、限界に至り、完結する。そのため、“了₁”はこの表現において完了を表す。一方、例(35) (36) の“死”[死ぬ]“丢”[無くす]は変化性の事態タイプであり、持続性事態ではない。そのため、“了₁”の後に“三天”[三日]を付加すると成立しない。しかし、次の文脈では変化性の事態タイプの表現が成立するのは何故であろうか。

(37) 刚死了一天就火化了。

[死んで一日経っただけで火葬した]

(38) 手表丢了两天又找着了。

[腕時計を無くしてから二日経ってまた見つけた]

例(37)では“死了一天”[死んで一日経った]と“火化了”[火葬した]という二つの事象が継起的に捉えられることによって、先行事象の“死了一天”[死んで一日経った]は一つの区切りを与えられ、完結的な事象と捉えられる。従って、“了₁”はこの表現に用いることが可能となる。例(38)も同様である。これは“??小王吃了饭”が成立しにくいのに、“小王吃了饭就出去了”[王さんはご飯を食べてから出ていった]が成立するのと同じように説明できる。つまり、“??小王吃了饭”は完結性を備えていないので、成立しにくいのが、“小王吃了饭就出去了”は後継事象“出去了”[出ていった]があるため、先行事象に完結性を付与し、自然な完了表現になるからである(木村1997:167)。ここで、付け加えておきたいのは「限界性」、「完結性」といった意味は単なる動詞自身によるものだけではなく、文脈から付与されることもありうる。例えば“?他看了书。”のような表現は成立しにくいとよく議論されている。しかし、例えば“你们昨天都干什么了?”の問いに対する答えとして“他看了书。我写了作业。”のように、文脈があれば成立する。また、例えば“?他坐了。”は成立しにくいのが、“我的椅子昨天谁坐了?”の問いに対する答えとしては“他坐了。”は成立する。つまり、文脈があるため、この場合の述語動詞“看,坐”はすでに完了したことを明確にされている。すなわち、文脈が述語動詞に<限界性・完結性>を付与したのである。

以上は“死”[死ぬ]“丢”[無くなる]について検討したが、これと同様に、“坏”[壊れる]“破”[破れる]“塌”[倒れる]などのような状態変化動詞につい

でも同じことが言える。

(39) a[?]表坏了两天。

b 表坏了两天又修好了。

[時計は壊れてから二日経ってまた直った]

(40) a[?]衣服破了一星期。

b 衣服破了一星期才缝上。

[服は破れてから一週間経ってやっと直った]

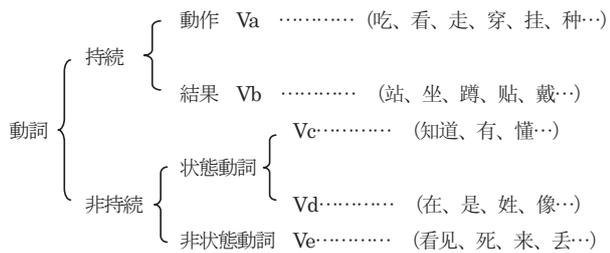
(41) a[?]房子塌了三天。

b 房子塌了三天又盖上了。

[家は倒れてから三日経ってまた建てられた]

ここで注意すべき点は中国語は変化動詞でも文脈の中で単純時間成分と共起して持続を表すことも可能であるが、日本語は変化動詞は単純時間成分と共起しない。そのため、翻訳する場合は迂言で説明しかない。

以上は“死”などのような状態変化動詞について述べたが、次に“肿”のような状態変化動詞について考えてみる。楊凱榮 (2001: 66) はアスペクトの観点から動詞を分類した。それをまとめると次のようになる。



そのうち、“肿”類について楊凱榮は明言していないが、氏の分類の仕方によれば“着”がついて結果の持続を表すものであるので、「Vb」類に属すると思う。しかし、ここでは問題が残る。というのは「Vb」類は“着”との共起では同じ特徴が見られるが、“了”との共起では異なる特徴が見られる。“站、坐”などの動詞は“?他站了。”、“?他坐了。”のように裸のまま、“了”と共起するとき、すわりが悪いと感ぜられるが、一方“肿”のような動詞は“手肿了。”のように裸のままでも“了”と共起する。なぜならば、“站、坐”は持続性があるものの、変化性という意味特徴はないからである。そのため、“他站住了。”、“他坐下了”のように補語が付加されると文が成立する。以上で分かるように“肿”類は(持続性・変化性)という意味特徴で“站”類の(持続性)と異なっている。ゆえに「Vb」類は更に下位分類する必要がある。次に例に合わせて、“肿”類の動詞を見てみよう。

(42) 她的手肿了一个月。

[彼女の手は一ヶ月腫れていた]

(43) 我的腿麻了一阵子。

[私の足はしばらくしびれていた]

(44) 妈妈迷糊了很长时间。

[母さんは長時間ぼんやりしていた]

“肿”[腫れる]“麻”[しびれる]“迷糊”[ぼんやりする]という状態変化動詞の表す状態はある期間を経て元の状態に戻ることが考えられる。元の状態に戻るとはすなわち完結することである。つまり、“肿”[腫れる]“麻”[しびれる]“迷糊”[ぼんやりする]という状態には一定の持続期間が存在して完結する。この意味特徴は“死”[死ぬ]“丢”[無くなる]“坏”[壊れる]“破”[破れる]“塌”[倒れる]などの動詞とは異なる。例(42)～(44)が成立するのに対し、例(39a)～(41a)が成立しないのはそのためである。

以上の“死”[死ぬ]類、“肿”[腫れる]類及びそれに対応する日本語の動詞の意味特徴は次のように示すことができる。

	変化性	持続性
“死”〈死ぬ〉類	+	-
“肿”〈腫れる〉類	+	+

【表2】“死”類と“肿”類の意味特徴

“死”[死ぬ]類は持続性の有無で“肿”[腫れる]類と異なっている。“死”[死ぬ]類と“肿”[腫れる]類の相違はアスペクト助詞との共起からも見てとることができる。“死”[死ぬ]類は[-持続性]という意味特徴を有していることにより、“*死着”のように“着”と共起できないが、“肿”[腫れる]類は[+持続性]という意味特徴を有していることにより、“肿着”[腫れている]のように“着”と共起できる。そして、“着”は参照時における状態持続を表すので、“肿”[腫れる]類は“着”と共起する場合、例えば“手现在还肿着”[手は今まだ腫れている]のように、「状態パーフェクト」を表す。

3.4は次のようにまとめることができる。“了”に触れるさい、動詞の〈限界性・完結性〉の議論がつきものである。本稿では木村(1997)を踏まえて動詞の〈限界性・完結性〉は文脈から付与されることもありうる と付け加えた。また、変化動詞において中国語は文脈の中で単純時間成分と共起可能であるが、日本語はそれと共起しない。このような非対応の場合、日本語は迂言的な翻訳しかない。〈変化・持続〉動詞において、中国語は“了”で表すが、日本語は「ていた/た」で表す。

4. 終わりに

本稿では日本語と中国語のアスペクト形式「た」「ている」と“了”“着”の対応性を中心にして考察した。その結果は以下のようにまとめることができる。

- 1) 先行研究は中国語のアスペクトは文法化されず、潜在的成分となることもあると論じたが、本稿は日本語との比較を通して、中国語には効力パーフェクトがなく、副詞や時間成分や文脈などから読みとるしかないと指摘し、また、動詞の〈限界性・完結性〉も文脈から付与されると述べ、中国語の特徴を裏付けた。
- 2) 先行研究は動詞の結果性について動詞の意味から日中の違いを論じたが、本稿は稼動期間成分との共起の観点から、このような日中の非対応性は単なる動詞の結果性の意味に起因するのではなく、アスペクト形式「た」「ている」と“了”“着”の機能にも原因があると指摘し、その違いを明確にした。
- 3) 単純期間成分との共起において“死”類動詞は〔持続性〕を有しないため、それと共起しないが、文脈のサポートがあれば共起可能となる。しかし、日本語はそれと共起しない。このような非対応の場合、日本語は迂言的な翻訳しかない。また、“肿”類動詞は〔持続性〕〔完結性〕を有することにより、“了”と共起できるという観点から、“站”類動詞と区別すべきだと指摘したうえで、日本語との対応性を述べた。

参考文献

- 荒川清秀1981. 「中国語動詞に見られるいくつかのカテゴリ」, 『愛知大学文学会文学論叢』67輯.
- 井上優・黄麗華2000. 「否定から見た日本語と中国語のアスペクト」, 『現代中国語研究』第1期.
- 池上嘉彦1981. 『「する」と「なる」の言語学』, 大修館書店.
- 木村英樹1997. 「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」, 『中国語学論文集』.
- 工藤真由美1995. 『アスペクト・テンス体系とテキスト』, ひつじ書房.
- 寺村秀夫1984. 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』, くろしお出版.
- 仁田義雄2002. 『副詞的表現の諸相』, くろしお出版.
- 宮島達夫1994. 『語彙論研究』, むぎ書房.
- 森山卓郎1986. 「日本語アスペクトの時定項分析」, 『論集日本語研究 現代編』, 宮地裕編, 明治書院.

- 陈平1988. 「论现代汉语时间体系的三元结构」, 『中国语文』第6期.
- 戴耀晶1997. 『现代汉语时体系统研究』, 浙江教育出版社.
- 鄧美華1993. 「日中両語の動詞の結果性について」, 『日本学報12』, 大阪大学文学部.
- 龚千炎1991. 「現代中国語のテンスとアスペクト体系」, 『中国語言語学情報2 テンスとアスペクトI』于康・張勤編, 好文出版.
- 何伟・吕怡2015. 「现代汉语时态之系统功能视角研究」, 『北京科技大学学报』.
- 刘宁生1985. 「论“着”及相关的两个动态范畴」, 『语言研究』.
- 劉綺紋2004. 『中国語のアスペクト体系の再構築に向けて—“了”・“著”・“過”を中心に—』, 大阪大学大学院言語文化研究科博士学位論文.
- 王学群2002. 「“v着(zhe)”再考」, 『日本語と中国語のアスペクト』, 白帝社.
- 楊凱榮1994. 「他動性における意図と結果—日中比較を通じて—」, 『言語理論と日本語教育の相互活性化』, 津田日本語教育センター.
- 楊凱榮2001. 「中国語の“了”について」『Hituzi Linguistics Workshop Series No.5「た」の言語学』, ひつじ書房.

Received date 2018年11月29日

Accepted date 2019年1月28日